

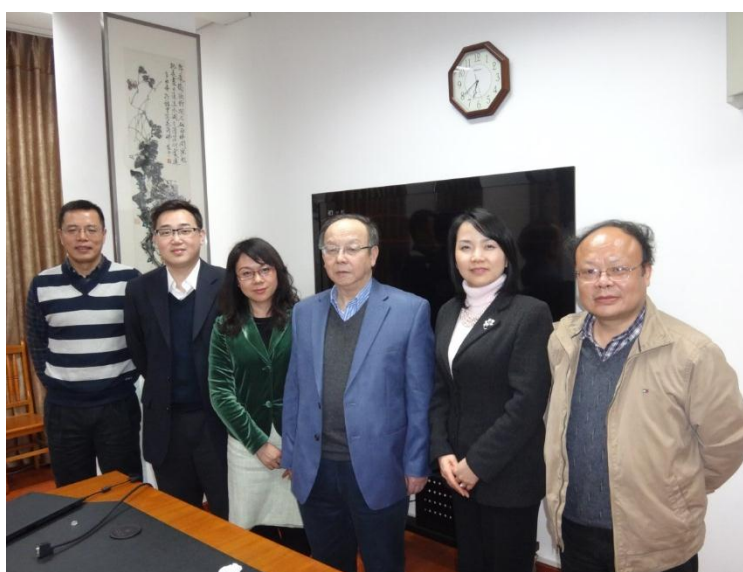
中国南京農業大学との交流協定書調印式

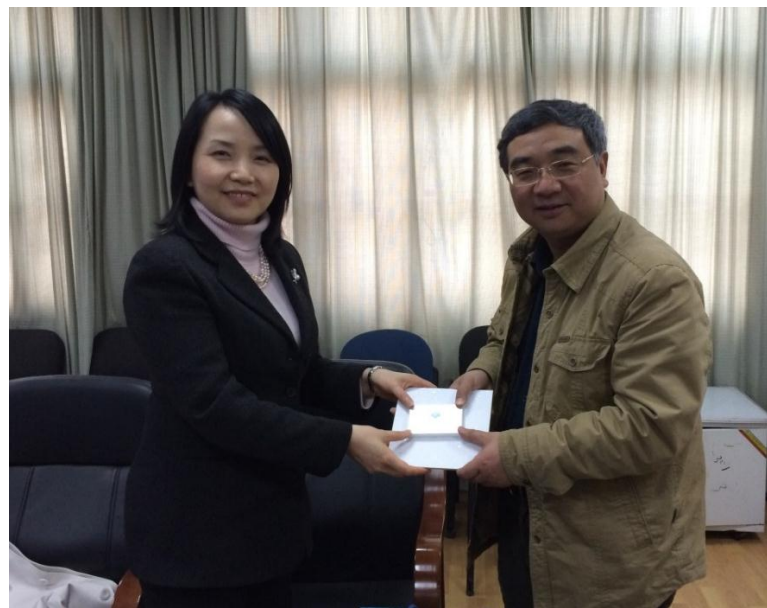
および上海語学研修プログラムの実施

3月14日に中国・南京農業大学と筑波大学との間で交流協定の調印式が行われました。南京農業大学の国際担当副学長、張紅生国際処長、周応恒人文社科処長、石松国際副処長が出席され、本学からは筑波大学上海事務所の田中正所長、生命環境系の楊英男准教授が調印式に臨みました。



この度の調印式に伴い、楊英男准教授は筑波大学上海事務所を拠点にして、上海交通大学、華東師範大学、中国西南部の四川大学、湖南大学など中国国内でも有数の大学機関の視察訪問し、中国国内でも関心の高い「つくば国際戦略総合特区」における本学の取り組みの紹介を行いました。





また、筑波大学上海事務所では、3月4日～25日の日程で上海語学研修プログラムが実施されました。この語学研修プログラムは、筑波大学上海事務所と現地にある茨城県上海事務所との協力をいただき、上海市内にある現地邦人企業とのインターンシップが組み込まれた産官学連携による初の試みとなりました。

生命環境科学研究科からも学生の参加があり、現地の研究機関や学術機関の見学を行うなど充実した日程を過ごしてきたことが伺えます。

最後にこの語学研修プログラムに参加された牧下さんの研修報告を紹介いたします。

上海語学研修(2014年3月4日～3月25日)を終えて

生物資源学類4年(参加時の学年) 牧下 彩乃

(現:筑波大学生命環境科学研究科生物資源科学専攻 所属)

中国に行って感じたことは、自分で試してみないと分からないことが沢山あるということだ。今まで中国という国に対してあまりいい印象はなかったが、実際に行って、中国人の生活の様子を見て感じ、中国人の「合理的だけれど人と人の距離が近く、人のやっていることをお互いあまり気にしないフリーダムなゆるい感じ」が、私は好きだなと思った。人や街の見た目は似たところがあるが、日本とは異なる価値観をもつ国だと思った。



研修中は、午前中に中国語の授業、午後は自由行動か企業訪問や茶話会などだったが、3週間で充実していて、もっと上海にいたい思っただけだった。

中国語の授業は筑波大生専用のクラスで行い、担当の先生方は、私達の反応を見ながら順序良く丁寧に教えてくださったので、のみ込みやすく、授業の回を重ねるごとに実生活で使う中国語のレベルが向上し、中国語を話すのが楽しくなっていた。企業訪問ではジャンルや形態の異なる企業をまわったが、上海での立ち位置や経営方針、現地の人々の雇用体系が違い、興味深かった。

また、今回私は誰も知り合いがいない中での参加だったが、一緒に行った学生と友達になり、上海在住日本人学生や華東師範大学の学生や院生、大学近くで太極拳を教えている先生と知り合え、人と人とのつながりを感じることができうれしかった。街中で歩いている人やお店の人とも、片言の中国語で会話できたことがうれしかった。

初めて海外に行った私にとって、短期間でも一人で留学するのは心許なかったが、今回のプログラムでは大学のサポートがあり、現地に日本語の話せる職員の方がいらっしや、安心して上海で過ごすことができた。特にトラブル等もなく充実した3週間を送ることができ、双方の先生方、職員の方、茨城県事務所の方、関係者の方々には感謝の気持ちでいっぱいである。ありがとうございました。